

オリンピック・パラリンピックの開催が間近に迫っており、待ちきれないという方も多いかと思いますが、今号では特集として、「オリンピック・パラリンピックのレガシー（遺産）」について取り上げていきます。

オリンピック・パラリンピックのレガシーとは、開催を契機として、社会に生み出される持続的な効果のことです。開催予定都市において各種施設やインフラの整備、スポーツ振興が図られ、生活の利便性が良くなることなどがレガシーとして挙げられます。2012年ロンドン大会の開催都市決定プロセスから、立候補する段階でレガシーへの言及が必要となっていました。

東京2020大会でも、レガシーの創出には力が注がれています。なかでも「人権」や「多様性」は、大きなテーマの一つです。大会には、宗教や性、文化など多様な人が世界中から集まります。お互いを思いやり、理解しようとする気持ちがあり、みんなが楽しめる大会を目指すために必要です。

東京2020大会はレガシーとして未来に何を残すのか、1964年東京大会のレガシーを振り返りながら、オリンピック・パラリンピックと人権について考えます。

## 64年のオリンピックピックが残したもの

1960年代を知る方にとって64年の東京オリンピックには、特別な記憶、思いがあるのではないのでしょうか。オリンピックに向けて大きく変わっていく街並み、開会式での航空自衛隊のアクロバット飛行に、バレーボール女子日本代表「東洋の魔女」の金メダル…。64年の東京オリンピックは人々に鮮烈な印象を与えただけでなく、今の暮らしにつながる様々なもの、いわゆるレガシーを残しています。

### 新幹線とモノレール

オリンピック開幕に合わせて開通されたのが新幹線です。それまで6時間以上かかっていた東京―新大阪間は、開通の翌年にはわずか3時間10分で行けるようになりました。同時に東京モノレールも開通し、当時の空の玄関口である羽田から、都心へのアクセスが大幅に改善されました。



64年開通の東海道新幹線



日本橋の首都高

### 高速道路

1950年代後半、日本ではトラックや乗用車が普及し、交通渋滞が発生するようになっていました。その解決策として打ち出されたのが、高速道路の建設計画です。オリンピック開催にあたり急ピッチで開発は進められ、1962年には首都高速道路が開通しました。

### ピクトグラム（絵文字・絵単語）

「ピクトグラム」とは文字に頼らず図の形や色彩で、一定の情報や注意を示すための視覚記号のことです。これが最初の世界に広まるきっかけとなったのが、64年の東京オリンピックです。今の様に多言語のアナウンスが充実していないなか、日本語がわからない外国の人々のために考案されました。トイレなどの施設や、競技種目ごとのピクトグラムが採用され、後に引き継がれていきました。



五輪をきっかけに考案されたピクトグラム

### 冷凍食品

選手村に滞在するアスリート達に提供する料理を全て生鮮食品だけでまかなおうとすると、物価の価格高騰を引き起こす可能性がありました。そこで開発され

たのが冷凍技術。オリンピックをきっかけに、日本全体に広まっていきました。他にも、当時、急激な都市化で増大した家庭ゴミの処理が問題となるなか、美化運動が浸透してポリバケツが普及する、ママさんバレーが全国に広がるなど、64年の東京オリンピックが日本に与えた影響は計り知れません。東京2020大会で、一体どんなものがレガシーとして残せるのか。大きなミッションとなっています。（酒井）

## 日本のスポーツとオリンピック・パラリンピックの歴史

笹川スポーツ財団



オリンピック・パラリンピックで活躍した選手のエピソード満載の一冊。日本のスポーツ界発展の歴史をたどることができます。スポーツの未来を考える座談会の様子も掲載。

## 12の問いから始めるオリンピック・パラリンピック研究

坂上康博編著／かもがわ出版



「スポーツと社会」の現在と未来について考え、語り合うきっかけになる本です。オリンピック・パラリンピックの理念や歴史から、スポーツとナショナルリズム、ジェンダー、開催費用、社会的排除の問題まで、わかりやすく取り上げられています。（酒井）